紛糾中にある
宮設工場の爭議
製鐵所と砲兵工廠
文部省では教員增給の四十一萬圓をどうする

問題に問題を惹起し新豫算云々を以て稱く壓へ附けてある砲兵工廠や製鐵所など所謂官營工場の職工優遇に關する勞働爭議も豫算不成立で又不安に陷つた一つである

砲兵工廠は物價騰貴に因る建築費其他の增額に係る經費として五百六十萬圓餘を計上し職工優遇の財源に宛てゝ居た

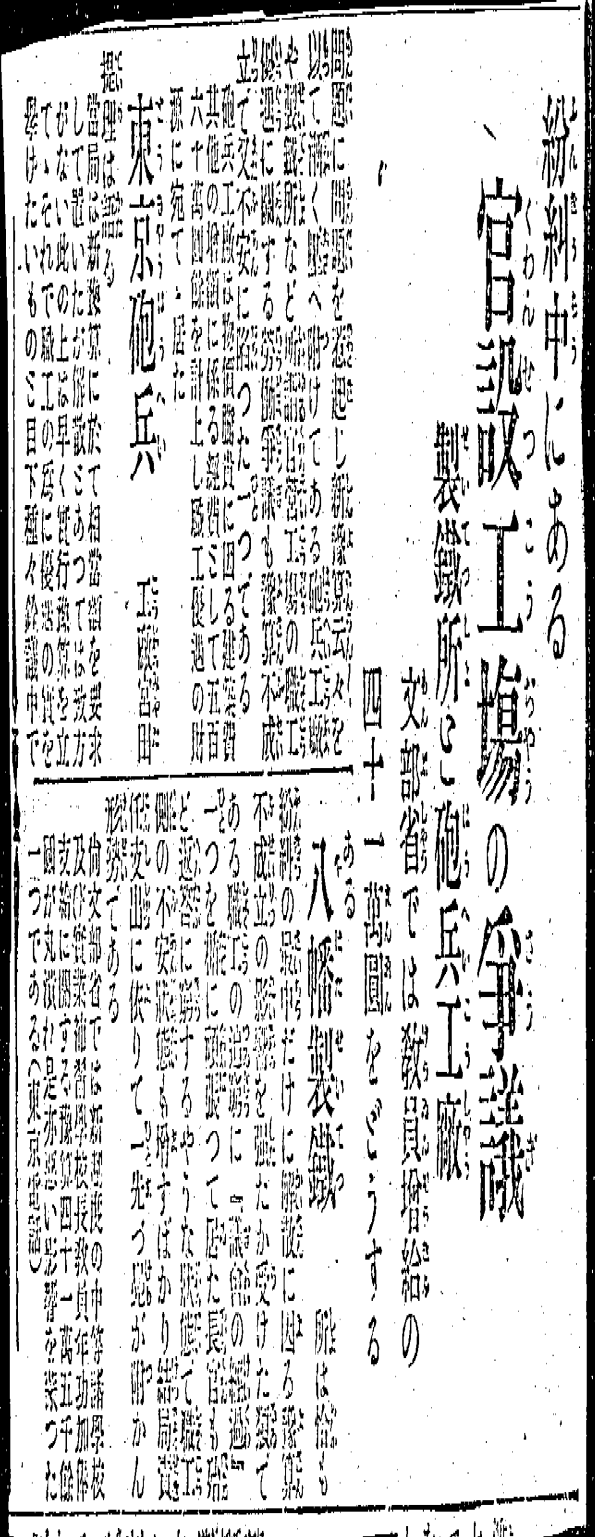
東京砲兵工廠宮田

提理は語る

當局は新豫算に於て相當額を要求して置いたが解散とあつては致方がない此の上は早く實行豫算を立てゝそれで職工の爲に優遇の實を擧げたいものと目下種々鈴議中で

八幡製鐵

所は恰も紛糾の最中だけに解散に因る豫算不成立の影響を強たか受けた類である職工の遺跡に「議會の經過」一つを楯に頑張つて居た長官も殆ど返答に窮するやうな狀態で職工側の不安狀態も增すばかり結局責任支出に依りて一先づ鎭が附かん形勢である



尙文部省では新制度の中等諸學校及び實業補習學校長教員年功加俸支給に關する豫算四十一萬五千餘圓が丸潰れ是亦惡い影響を蒙つた一つである（東京電話）